



MIYAZAKI SEIKO
INTEGRATED REPORT
2025



編集方針

宮崎精鋼は、社会からより一層信頼される企業を目指すため、「統合報告書」を単なる情報開示の手段ではなく、企業としての想いや未来へのビジョンを皆様と共有する大切なコミュニケーションツールと考え、従来の環境報告書の要素に中長期の事業戦略を加えると共に、品質、ガバナンス、社会への責任と貢献に関する内容を充実させ発行して参りました。

本報告書を様々なステークホルダーからの要請に応える対話ツールとしてよりわかりやすくお伝えすることを念頭に置いて誌面づくりを進めるとともに、今まで以上に充実した内容で皆様に有用な情報をお届け出来るものと考えています。

対象期間・対象範囲等

対象期間 —————
2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）を対象としています。

対象範囲 —————
宮崎精鋼株式会社
本社工場、知多工場、十四山工場を対象としています。

報告書発行日

2025年 7月

参考にしたガイドライン

環境省 「環境報告書の記載事項等の手引き」
「環境報告ガイドライン2012年版」
「環境報告ガイドライン2018年版」

●本レポートは、以下のアドレスでもご覧いただけます。
<https://www.miyazaki-seiko.co.jp/company/report/>

CONTENTS

- 01 編集方針・目次
- 02 Corporate Message

会社情報

- 03 社是・企業理念・経営理念・行動指針・会社概要・取引先・グループ概要
- 05 宮崎精鋼のあゆみ
- 07 主要製品

中期経営計画

- 09 スローガン・経営ビジョン・経営戦略

環境マネジメント

- 10 環境理念・方針
- 11 環境教育
- 12 カーボンニュートラル
- 13 緊急事態対応テスト
- 14 ゼロ・エミッション活動
- 15 省エネ活動
- 16 環境目的プログラム達成状況

品質

- 17 品質方針
- 18 品質維持、改善に向けた取り組み・品質実績の推移

安全衛生

- 19 労働災害の撲滅
- 20 健康経営

リスクマネジメント

- 21 サプライチェーンマネジメント
- 22 コンプライアンス・情報セキュリティに関する取り組み
- 23 事業継続に向けた取り組み (BCP)

社会への責任と貢献

- 25 地域貢献（社会との交わり）

当社は 2022 年 5 月に前中期経営計画「Challenge our Innovative Future 2030 (CIF30)」を策定し、「100 年に一度の変革期」とも称される自動車業界をはじめとした急激な産業構造の変化に対応すべく、「社員一人ひとりが主体的に考え、行動し、企業のさらなる革新と成長に繋げて行く」を経営スローガンとして掲げ、2024 年度を最終年度とする本計画では、売上や収益といった定量目標のみならず、「宮崎精鋼の SDGs の実践」「ヒトづくりの更なる推進」「モノづくりの強化」「営業戦略の積極推進」「経営基盤の強化」「社員満足度の高い会社に向けた取り組み」といった経営の質的な向上にも力を注いでまいりました。

新型コロナウイルスの影響が残る中での計画始動となりましたが、国内自動車生産は 2023 年にかけて徐々に回復基調に転じました。しかしながら、2024 年度には自動車認証問題や一部車種の不具合の発生、さらには能登半島地震や豪雨、台風といった自然災害が重なり、生産は思うように回復せず、厳しい事業環境が続きました。また、中国・東南アジア市場では、中国系自動車メーカーが電動車を武器に大きく成長を遂げる一方、日系メーカーは依然として厳しい競争に直面しています。

こうした外部環境のなかで、当社の取扱数量は目標に届かなかったものの、素材メーカー殿の価格改定に伴う販売単価の上昇、お客様のご理解によるコスト増加分の価格転嫁もあり、売上・収益ともにほぼ目標水準を確保

Corporate Message

できる見込みです。また、QCDS 向上、生産性改善、営業力強化、経営インフラ整備など、定性的な側面でも多くの成果を挙げることができたと実感しています。加えて、海外拠点であるメキシコ工場「Miyazaki Seiko de Mexico」が設立 10 周年を迎え、漸く黒字化となるところまで漕ぎつけるなど、グローバル戦略の上でも大きな前進となりました。

しかし、足元の事業環境は依然として不透明です。中国市場における日系自動車の販売不振、中国メーカーの東南アジア進出の加速、そして 2025 年 1 月、2 度目の米大統領に就任し影響力を強めつつあるトランプ米大統領による保護主義的な通商政策——とりわけ鉄鋼・自動車部品に対し高関税が課される中、北米市場における輸出事業は重大な岐路に立たされています。また、世界的な EV シフトと脱炭素への圧力も、当社の加工事業・素材調達に構造的な変革を迫っています。さらに、国内外での労働力不足や物流費・エネルギーの高騰といったコスト増加要因も、経営の持続性を揺るがす懸念材料です。

このような背景を踏まえ、当社は 2025 年度より新たな中期経営計画「Challenge our Innovative Future 2030 Neo (CIF30 Neo)」を始動いたします。これまで以上に「社員一人ひとりが考え、行動し、企業のさらなる革新と成長に繋げて行く」文化を大切にしつつ、「大きな環境変化に適応し、お客様の期待にしっかり応える強い会社であり続ける」との新たな企業理念（パーパス・ミッション）も設定し、その実現に全社一丸で取り組んでまいります。今後とも、皆様の一層のご支援とご指導を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

2025 年 7 月

宮崎精鋼株式会社
代表取締役社長

宮崎 元伸



社 是

若々しい創造力と情熱あふれるチャレンジ精神で行動し
誠実を以て企業としての責任を果たす

企 業 理 念

PURPOSE 宮崎精鋼が社会に存在する目的

大きな環境変化に適応し、お客様の期待にしっかり応えられる、強い会社であり続ける

MISSION PURPOSE 実現のために果たすべき使命

- 「世界トップレベルの特殊鋼棒線二次加工メーカー」を目指すことに加え、新しい価値の創造に向け、特殊鋼の用途開発を行うなど、自らの領域を拡大すること
- お客様のサプライチェーンの一翼を確実に担うべく、ESG、QCDS の更なる深化に努めること

経 営 理 念

1. 顧客に対する責任 より良い品質・納期・競争力あるコストを実現し、更に時代の変化に対応した技術と商品を開発する事
2. 社会に対する責任 我々の作る商品を通し地域社会に貢献する事
3. 社員に対する責任 働く生き甲斐と活力ある職場を作る事
4. 株主に対する責任 健全な利益をあげ株主の信頼に応える事

行 動 指 針

1. 常に“青春”の心を持ち何事にも積極的にチャレンジする
2. 基本を身につけ変化に対応した行動をとる
3. 公平で誠実な心を持ち信頼を築く事

会社概要

会 社 名	宮崎精鋼株式会社	会社HP	会社紹介動画
本社所在地	愛知県名古屋市中川区丸米町一丁目1番地		
創 業	1938年 8月 (昭和13年)		
代 表 者	代表取締役社長 宮崎 元伸		
資 本 金	1億4,700万円		
従 業 員	279人 (2024年6月1日)		
事 業 所	本社工場 愛知県名古屋市中川区丸米町一丁目1番地 (主要製品) 精密磨棒鋼・冷間引抜鋼管の製造 十四山工場 愛知県弥富市馬ヶ地三丁目194番地 (主要製品) 精密磨棒鋼・冷間引抜鋼管の製造 知多工場 愛知県東海市元浜町12番地 (主要製品) 冷間圧造用鋼線の製造・ファインスラグの製造		

取引先 (仕入先・販売先)

主要仕入先様	日本製鉄株式会社 大同特殊鋼株式会社 他
主要販売先様	株式会社青山製作所 株式会社アイシン 武蔵精密工業株式会社 金田工業株式会社 メイラ株式会社 Astemo株式会社 他多数

グループ概要

宮崎グループ

東洋精鋼株式会社

所在地／〒490-1412 愛知県弥富市馬ヶ地三丁目195番地 1
TEL 0567 (52) 3451 FAX 0567 (52) 3457
主な業務／ショットピーニング用投射材 (Rounded Cut Wire) の製造
自動車・航空機部品ピーニング受託加工、ピーニング及び検査装置の開発製造

株式会社交邦磨棒鋼センター

所在地／〒454-0027 名古屋市中川区広川町 5-1-11
TEL 052 (353) 1281 FAX 052 (353) 1285
主な業務／磨棒鋼 (切断加工を含む)、冷間圧造用鋼線、硬質クロームメッキシャフト、面削品 その他鉄鋼製品の販売

宮崎エンジニアリング株式会社

所在地／〒454-0834 名古屋市中川区丸米町 2-38
TEL 052 (369) 1711 FAX 052 (387) 5885
主な業務／冷間圧造用鋼線等金属工作機械製造販売・メンテナンス、中古機械販売
硫酸洗添剤の販売、ISOコンサルティング (14001)、他

日邦通運株式会社

所在地／〒454-0842 名古屋市中川区宮脇町 1-27
TEL 052 (363) 1166 FAX 052 (363) 1168
主な業務／陸上運送業

有限会社京都工業所

所在地／〒478-0001 愛知県知多市八幡字深山口 1-6
TEL 0562 (32) 5486 FAX 0562 (39) 3381
主な業務／人材派遣事業、産業廃棄物収集運搬業、業務受託、製品検品作業

日鉄プロセッシング株式会社

所在地／〒590-0947 大阪府堺市堺区熊野町西 3-2-7
TEL 072 (341) 6430 FAX 072 (341) 6435
主な業務／冷間圧造用鋼線の製造販売及び普通線材の製造販売

海外事業所

Miyazaki Seiko de México, S.A. de C.V.

Avenida Villa de Lagos Sur 1126, Parque Industrial Colinas de Lagos
C.P. 47515 Lagos de Moreno, Jalisco, México
TEL +52-474-403-2018
主な業務／特殊鋼棒線二次加工業
磨棒鋼、冷間圧造用鋼線の製造、加工、購入、販売、流通、輸出、輸入、保管、在庫業務

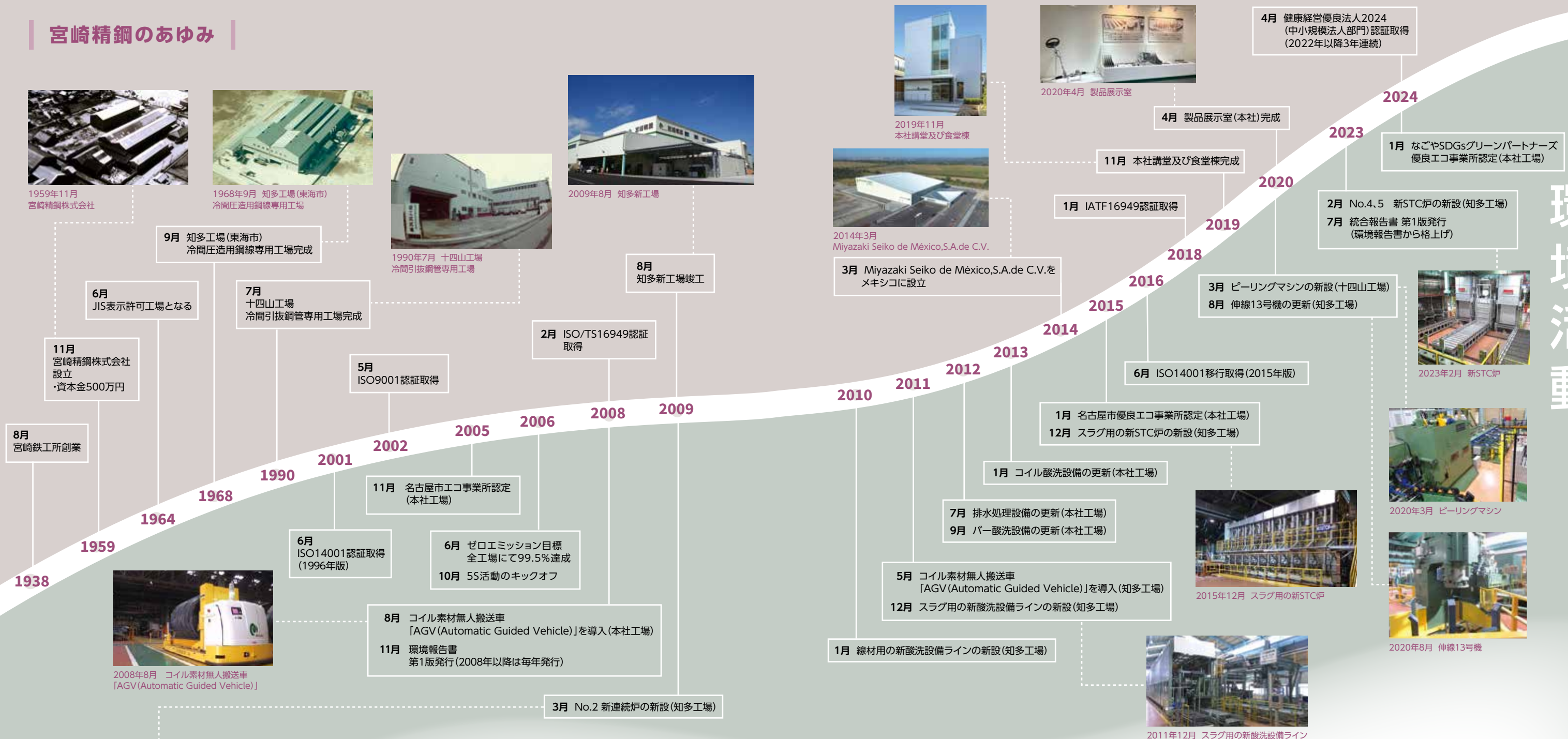
日鉄冷圧鋼線 (蘇州) 有限公司 (NSCh)

蘇州市吳中經濟開發区淞陵路 1008 号
TEL +86-512-6708-1134
主な業務／冷間圧造用鋼線の製造・販売

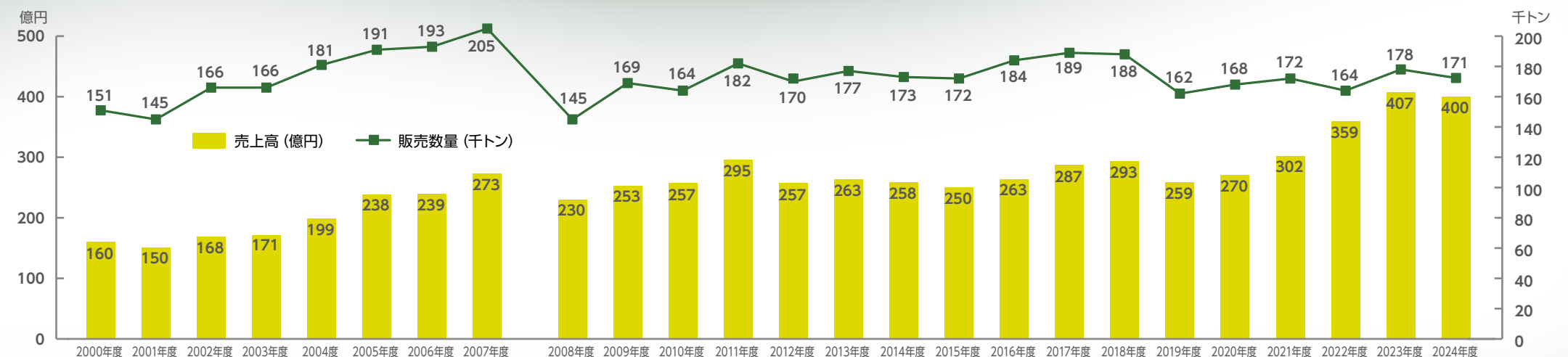
NIPPON STEEL Steel Processing (Thailand) Co., Ltd. (NSSPT)

64/5 Moo 4 Eastern Seaboard Industrial Estate(Rayong), Tambol Pluakdaeng, Amphur Pluakdaeng, Rayong 21140
TEL +66-38-954-435-41
主な業務／冷間圧造用鋼線及び磨棒鋼の製造及び販売にこれらに付帯する事業

宮崎精鋼のあゆみ



売上高と販売数量



主要製品

【特殊鋼】特殊鋼は、一般的な鋼材よりも高い品質や特性を持つ鋼の一種で、通常の鉄にさまざまな合金元素（クロム、ニッケル、モリブデンなど）を添加し製造します。
特殊鋼の特性や性能は、その使用目的によって異なり一般的に「高い強度」「優れた耐摩耗性」「耐熱性」などがあります。これらの特性によって、特殊鋼はさまざまな産業分野で幅広く使用されています。



バーチャル
展示室



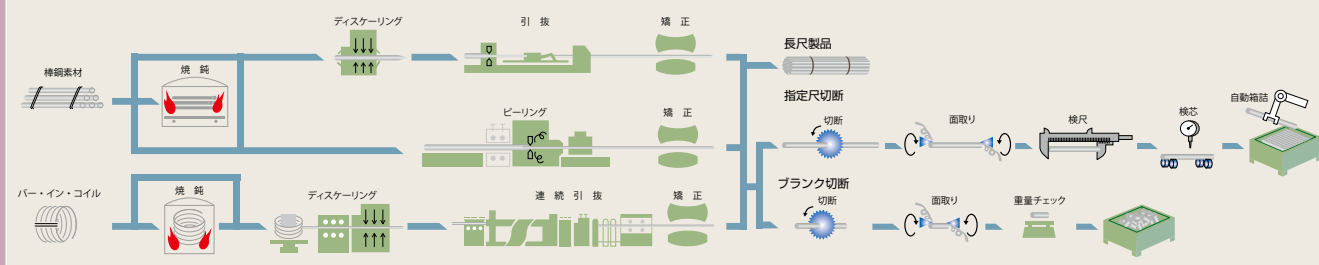
製品部品
紹介

精密磨棒鋼

特殊鋼線材または棒鋼を素材に、冷間引拔製品を始め、表面キズゼロを保証するピーリング（研削）製品や長尺センタレス（研磨）製品と、それに切断・面取等の加工を施してお客様の用途やご要望に応じて高品質・高精度の磨棒鋼製品をお届けしています。



WORK FLOW

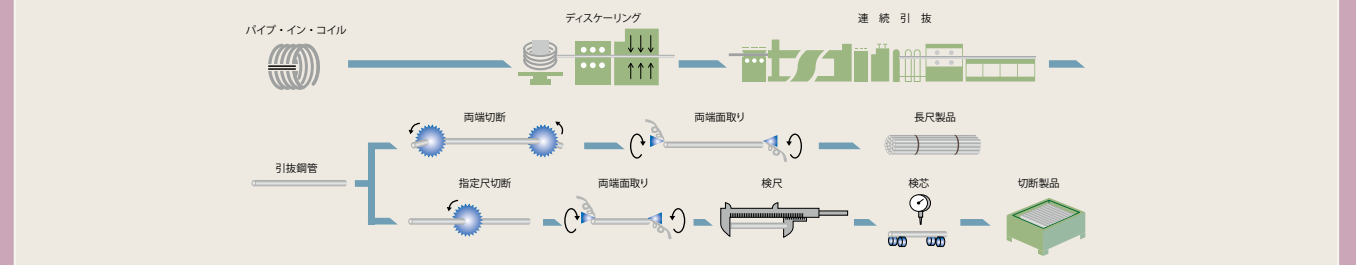


冷間引拔鋼管

PIC（パイプインコイル：SR鋼管をコイル状に巻き取った鋼管）を素材に、磨棒鋼の引拔技術を融合させて製造した鋼管製品は新たな用途・可能性を生み出しお客様のご期待に応えています。



WORK FLOW

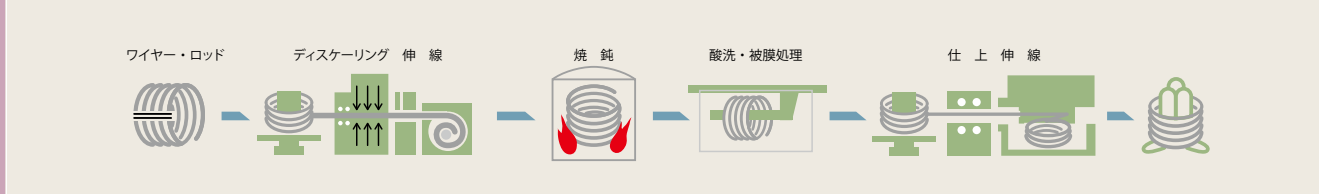


冷間圧造用鋼線

最適な加工方法で、安定した高品質の冷間圧造用鋼線をお届けすると同時に、最先端の技術・設備と宮崎独自の工夫で、環境にも徹底的に配慮した製品を造り出しています。



WORK FLOW

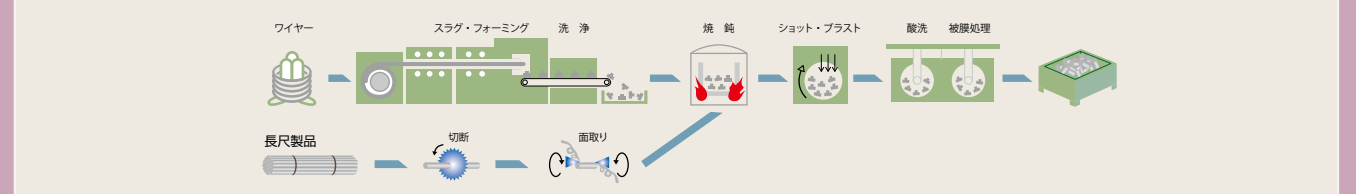


ファインスラグ

ファインスラグとは、「形状・焼鈍・被膜」の3拍子揃った冷鍛用素形材であり、当社は、長年培ってきた冷間圧造用鋼線の製造技術をベースに、形状・金型・加工工程の設計に至るまで、独自のノウハウと徹底した管理により製造しています。



WORK FLOW



スローガン

Challenge our Innovative Future 2030 Neo (CIF30 Neo)

大きな変化の時代、社員ひとりひとりが自ら考え、行動し、企業の更なる革新と成長に繋げて行こう!

経営ビジョン

① 誰にも負けない「宮崎ブランド」

お客様の期待に確実に応える良品づくりを続け、揺るぎない「宮崎ブランド」と業界における圧倒的な地位の確立に努める

② 全てのステークホルダーから愛され、頼られる強い会社

筋肉質で、高品質・低コスト、確かな技術力、健全な財務体質を備え、社会から信頼・評価される品格のある会社を目指す

③ 全社員が主体性をもって積極的に働く会社

「自ら動き、提案し、実行する」企業文化の醸成に向け、社員の成長をうながす取り組みを行っていく

④ 社員満足度の高い会社

「仕事に行くことが楽しい」「長く勤めたい」と社員全員にそう思ってもらえる会社の実現を目指す

経営戦略

① 事業環境の大きな変化に対する適応

①磨棒鋼管事業における競争力の維持・強化/ ②次世代事業の模索・検討と推進/ ③カーボンニュートラル(CN)、サーキュラーエコノミ(CE)の追求/ ④新基幹システムの稼働と現システムからの円滑な移行/ ⑤危機管理体制の強化(自然災害、情報セキュリティ、パンデミック対応、コンプライアンスの徹底等)

② 「ヒトづくり」の推進

①採用力の強化(新たな採用手法の検討・導入)/ ②社員満足度の向上(仕事楽しい、長く勤めたいと思える会社の実現)
③人材育成制度の充実、DX人材の育成(生成AI、RPAなど)

③ 営業戦略の積極的推進～圧倒的に勝ち残る

①収益力の強化/ ②数量確保と新需要の取り込み/ ③メキシコ(MSM)事業の強化/ ④素材メーカーとの関係強化
⑤営業人材の育成

④ 「モノづくり力」の強化

①安全活動の推進/ ②品質の向上/ ③生産実力の強化/ ④新基幹システムの最大活用(業務刷新、設備管理力の強化)
⑤新技術へのアンテナを高くし、積極的に取り組む

⑤ 技術開発・マーケティングの推進

①これまでの取り組みの成果の確実な刈り取り/ ②マーケティング戦略の更なる推進/ ③重要なお客様との関係強化

⑥ 「宮崎精鋼のSDGs」の実践

「ものづくり企業の責任」「人材育成」「働きやすい職場」「技術革新」「地球環境」「地域とのつながり」との6つのGoalsの達成に向け、各々の具体的目標の達成に向け確実に取り組む

環境理念・方針

自然・社会との調和を目指した企業活動

「環境理念」を達成するために「環境方針」を定め、全員参加で環境保全活動に取り組むことにより、お客さまの信頼、従業員の満足、地域社会への貢献を目指します。

環境スローガン

「もっとまわりを大切に!」



環境理念

私たちのまわりを取り巻く、自然や、生物や、人々に感謝し、私たちの企業活動を通じ、より大切に、より改善して、次世代にバトンタッチ出来るよう「良き企業市民」として行動する。

環境方針

私たちは、地球環境の向上と企業活動を調和させ、環境負荷の低減を考慮した生産活動を追及することにより環境保全と資源を大切にする企業活動を推進する。

また、上記スローガンを念頭に、次の活動項目を推進する。

1. 宮崎精鋼株式会社が行う全ての事業活動について、環境影響を評価し、汚染の予防に努めると共に、技術的、経済的に可能な範囲で、環境保全活動に取り組み、環境マネジメントシステムを継続的に改善し、環境パフォーマンスを向上させる。
2. 環境関連の法律、規制、協定等を順守するとともに、技術的、経済的に可能な範囲で、自主基準を設定し、環境に影響を与える恐れのある事業活動を責任をもって管理する。
3. 社内改善活動を実行し、省資源・省エネルギー活動の推進、地球温暖化による気候変動等の要因である温室効果ガス排出量の削減活動に積極的に取り組む。また、環境保護、資源保護、再生産性に優れた資材の購入に努める。
4. “ゼロエミッション活動”によって廃棄物の再資源化率99.5%を維持する。
5. “5S活動”を通じ、工場内とその周辺の美化、作業環境の改善を推進する。
6. 地域住民とのコミュニケーションを大切にする。
7. この環境方針達成のために、環境目的及び目標を設定するとともに、定期的及び必要に応じてこれを見直す。
8. この環境方針を全従業員に環境教育・訓練により、周知徹底を図る。また、取引先に対しても理解と協力を求める。

環境教育

本社工場は小学校や商店街及び住宅街に隣接した場所に位置し、また、知多工場や十四山工場も同様、地域の環境の大切さを考えて環境問題に取り組んでいます。

社内啓蒙活動

環境マネジメント教育

従業員に、新年度の環境方針・目標を周知させ、工場の活動による環境影響とその責任について教育し、環境保全維持のための環境意識の向上に努めています。

内部環境監査

環境マネジメントシステムの適合性と有効性および法令の遵守の状況などを確認するため、毎年定期的に内部環境監査を実施しています。内部監査員のレベルを高めるため、毎月、関連法規の勉強会を開催しています。また、内部監査の不適合については「内部監査是正処置報告書」を作成し、年度末に行う環境マネジメントレビューのインプット情報として経営者に報告し、次年度へのレベルアップに繋がっています。

安全衛生教育

労働者がストレスのない健康で安全な作業ができるように、必要な安全衛生に関する知識を学んでいます。労働災害防止として、設備や作業上、及び化学物質についての取り扱いリスクアセスメントを実施し、危険予知活動、指差呼称、ヒヤリハット報告を行って安全強化に努めています。また、各工場3ヶ月に1回産業医の先生に工場をご視察して頂き、ご指導を頂いています。



安全衛生委員会

5S活動

年に1回、会長、社長以下、全役員 および、労働組合 幹部にてトップパトロールを実施し、在庫管理の強化・工夫、機械周りの油や埃の清掃、挨拶など、5S活動の進化を評価し、最優秀賞・優良賞・努力賞を表彰しています。

また、5Sポスターや5S標語を募集して、優秀賞や佳作賞を表彰するとともに掲示し、5S意識の高揚に役立てています。



トップパトロール巡回風景



5Sポスター 入選作

やりにくい いつもの作業に一工夫
アイデア集めて 作業改善

本社工場 棒鋼・出荷グループ 稲垣 利康

自ら考え 自ら行動
意識変われば自慢の職場

十四山工場 磨棒鋼管品質保証課 式守 孝則

意識を磨き5Sに展開
いつもきれいな我が職場

知多工場 CH鋼線事業部 製造課 市成 克久

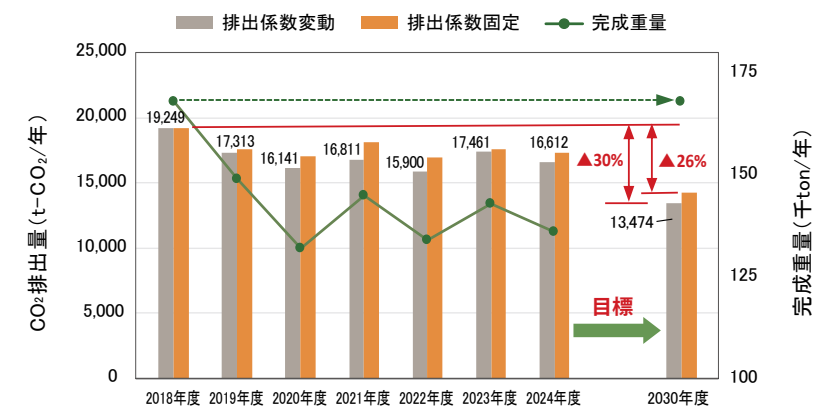
5S標語 優秀作

カーボンニュートラル

「カーボンニュートラル」は、社会への貢献活動として必要不可欠な重要取り組み事項です。

産業革命以前に比べ既に気温が約1.0℃上昇しており、このまま上昇し続けると干ばつによる食料不足氷河の溶融による大都市の水没、異常気象による自然災害（台風・大雨・森林火災）の拡大など様々な被害が予想されます。これを防止するために、当社ではCO₂の排出量を2030年までに2018年度対比30%減、2050年までに実質0を目標に活動を進めています。

CO₂の排出実績および削減目標



2030年度 CO₂削減目標

CO₂排出量2018年度対比 ▲30%
(排出係数の影響により実質 ▲26%)

※算出条件

- ・完成重量：2018年度と同じ
- ・CO₂排出量：Scope1,2のみ

2024年度 CO₂排出量削減実績

▲13.7% (2018年度対比)

カーボンニュートラルへのアプローチ

- ① 省エネの追求…6STEP活動の推進
- ② 製造工程／方法の見直し…規格・条件緩和による工程短縮または省略および生産性改善
- ③ 新技術の活用…水素・アンモニアの活動技術、CO₂の回収、貯蔵・利用
- ④ 証書購入…再生可能エネルギー、J-クレジット

取り組み実績

- ① 日常および定期
 - ・稼働終了後の電源、バルブ遮断の徹底
 - ・エア漏れ診断実施（定期診断による漏れ箇所と漏れ量の特定）
結果（例：CH鋼線事業部）：点検の結果、計画的に15カ所漏れ修理実施（配管増し締めやエア・3点セット交換等）
- ② 設備改善（シーケンス変更）
 - ・コンプレッサーの自動停止化 ・付帯設備の連動停止化
- ③ 設備導入
 - ・メカニカル・デスケーリングマシン：高効率モーター化
 - ・STC炉：無水攪扇への交換
 - ・スラグフォーマー：省エネ仕様（連動停止）のミストコレクターへの更新
 - ・事務棟：窓ガラスの2重サッシ化

今後の取り組み

- ・製造条件の変更などによる更なる生産性の向上
- ・設備改善・導入設備において効果のあったものに対し全社への水平展開
- ・新たな省エネの手法・設備の取入れ

緊急事態対応テスト

当社は、環境リスクが大きいと想定される緊急事態を特定し、直接又は間接要因で起こりうる有害な環境影響を予防・緩和するための手順として「緊急事態対応指示書」を定め、年に1回、主管部門が緊急事態の対応テストを実施しています。ここでは、テストと訓練を混同しないように、テストでは手順の有効性を確認し、訓練では手順通り行えるようになることを目的として、それぞれの評価をしています。

今年度も緊急事態に特定した事故はありませんでした。

発生場所	写真 No.	想定される緊急事態	生じる環境影響
本社工場	①	濃硫酸タンクへのローリーによる過供給により流出	水質汚染
	②	粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染
知多工場	③	粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染
	④	停電時の熱処理炉停止による不具合品の大量発生	廃棄物増大
	⑤	排水処理設備よりPH異常の排水が流出	水質汚染
十四山工場	⑥	粉塵の引火による集塵機の火災	大気汚染



① 遮蔽板の取付け訓練



② 濃硫酸の回収訓練



③ 消火器による消火訓練



④ 消火栓による消火訓練（ファインスラグ）



⑤ 冷却水バルブの切換え確認



⑥ 自家発電装置の動作確認



⑦ PH異常の排水テストの説明



⑧ 流量計により流出停止を確認



⑨ 消火器による消火訓練

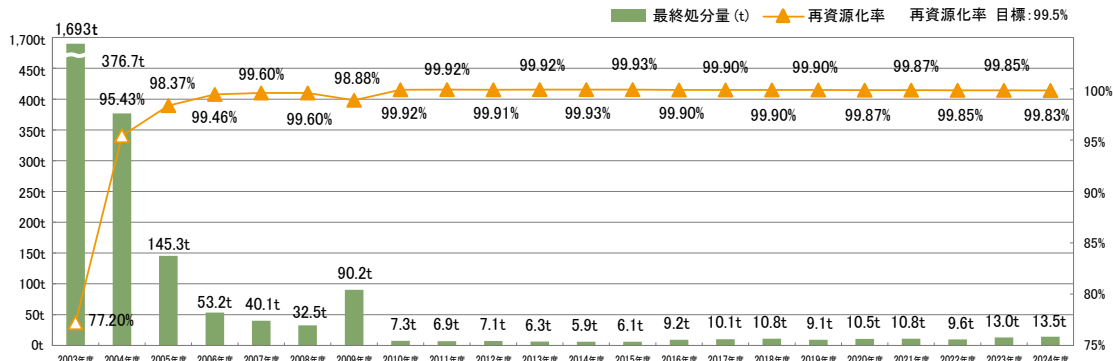
ゼロ・エミッション活動

当社は循環型社会を実現するために、ゴミの分別と3R(Reduce(リデュース:減量化)、Reuse(リユース:再使用)、Recycle(リサイクル:再資源化))の活動を基本として、廃棄物削減と再資源化の推進に向けた活動をしています。

ゼロ・エミッションの推移

再資源化率と最終処分量(埋め立て廃棄物)の推移

※2004年度よりゼロ・エミッション活動をスタートし、2010年度以降は再資源化率の目標の99.5%以上を達成しています。



廃棄物の排出量と内訳

2024年度の当社の総排出量は7,901tで、再資源化率の実績は、99.83%でした。

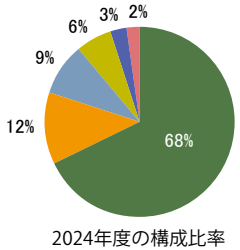
排出内訳

工場	知多工場	本社工場	十四山工場	全工場
再資源化量 (t)	5,074	865	1,918	7,887
埋立量 (t)	8.6	2.2	2.7	13.5
再資源化率 (%)	99.83%	99.76%	99.86%	99.83%

※再資源化率=再資源化量÷(排出量-焼却量-排水量)

種類別廃棄物の排出量と構成比率

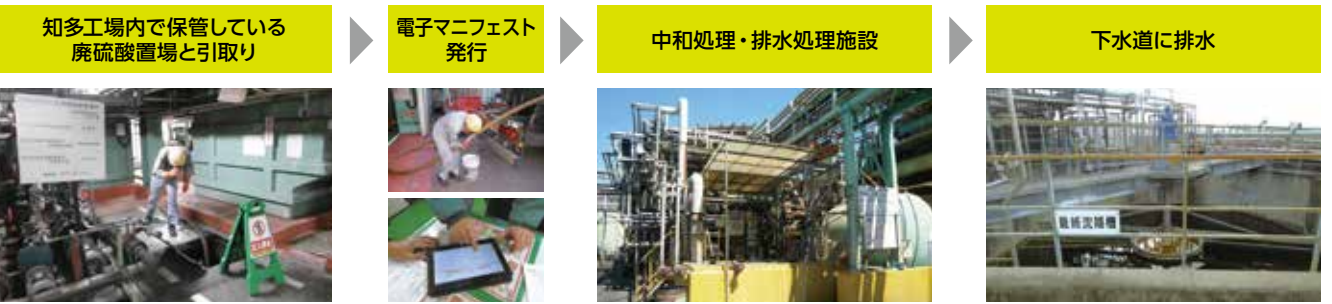
全工場	2023年度排出量	構成率	2024年度排出量	構成率
鉄関係 (t)	5,955	73%	5,374	68%
廃酸 (t)	1,034	8%	966	12%
七水塩 (t)	722	8%	672	9%
汚泥 (t)	502	6%	502	6%
粉じん・スケール (t)	277	3%	227	3%
廃油・廃プラ・一般ゴミ (t)	192	2%	159	2%
合計 (t)	8,682	100%	7,900	100%



2024年度の構成比率

廃棄物の適切な分別と産業廃棄物処理業者の適正な処理

環境法に従い、生産活動に伴って発生する廃棄物を廃棄物置場に保管し、処理業者に処理を委託しています。また、マニフェストを発行して産業廃棄物の処理の流れを自ら把握し、不法投棄等を防止すると共に、適正な処理がされているか愛知県条例に従い、年に1回の実地確認をしています。



株式会社ダイセキ殿の実地確認写真

省エネ活動

当社は、CO₂排出“ゼロ”(カーボンニュートラル)を目指して、エネルギー使用の合理化や、設備の高効率化など継続的な省エネルギー活動に積極的に取り組んでいます。

全工場エネルギーの使用実績 (2024年4月～2025年3月、原油換算: 8,912kl)



モノづくりの原点回帰とお客様に必要とされる企業へ

品質方針

当社は、常に「お客様の目線」に立って、より良い品質・納期・競争力のあるコストを実現し、さらに時代の変化に対応した技術と商品を開発・提供することで社会に貢献することを理念とする。

さらに、世界トップクラスの特殊鋼棒線二次加工メーカーとなることを目指し、下記の活動を推進する。

- 1) 顧客のニーズと期待を把握し、製品を作り込む際の要求事項を明らかにし、これを満足する製品を提供し続ける。
- 2) 更なる魅力ある商品を提供する為に、品質マネジメントシステムを継続的に改善する。
- 3) 品質方針の実現に向けて、品質目標を設定し、達成努力する。
また、適宜、レビューを実施する。
- 4) 法令等の規制事項を遵守し、品質マネジメントシステムが機能する為に、継続的に見直しを行う。



品質維持、改善に向けた取り組み

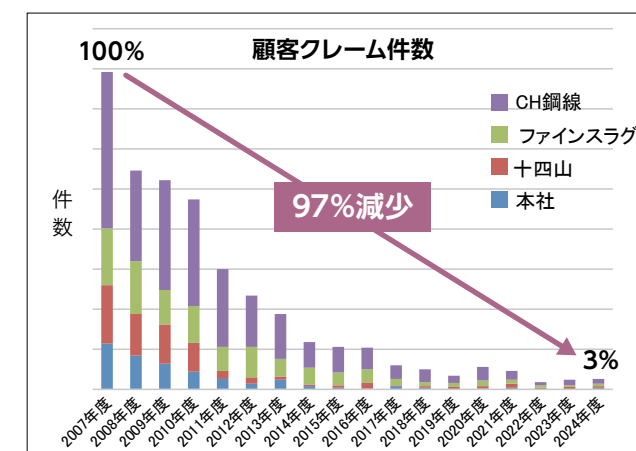
当社は、常に「お客様の目線」に立って、より良い品質・納期・競争力のあるコストを実現し、さらに時代の変化に対応した技術と商品を開発・提供することで社会に貢献することを理念としています。

社内不適合に対しては、主に製造工程監査にて、コントロールプラン、FMEAおよび、作業標準の整合性を確認しています。特に、曖昧作業の撲滅を目指しており、基準値・狙い値・調整作業の数値化・明確化を図っています。素材不適合に対しては、素材起因クレームの75%を占める鋼片疵・圧延疵を主として、鉄鋼メーカーを訪問し対策状況を現地・現物で確認しています。

上記の取り組みにより、顕在化した不具合の撲滅、潜在的な不具合の未然防止に努めています。

品質実績の推移

■ 全社の品質実績



2007年クレーム件数の部門ごとの割合

本 社	14.4%
十四山	18.4%
CH線材	49.3%
ファインスラグ	17.9%

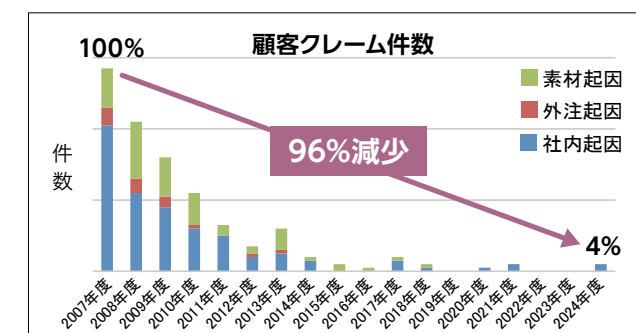
① 社内不適合に対する取り組み

- ・製造工程監査による曖昧作業の撲滅
- ・なぜなぜ分析による原因追及の深堀
- ・5S活動、毎朝の現場パトロールによる危険の目の早期発見
- ・新規または工程変更品に関して、DRと工程能力調査の実施

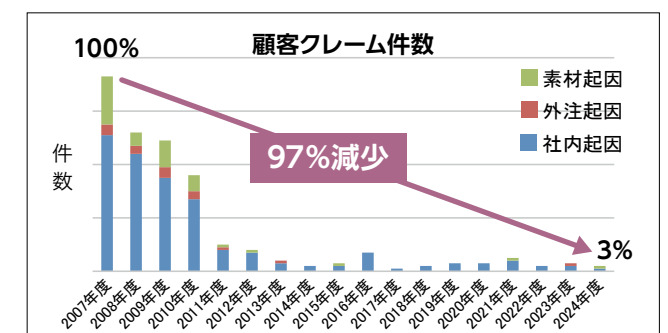
② 素材不適合に対する取り組み

- ・鉄鋼メーカー訪問による不具合対策状況確認(情報の共有化)

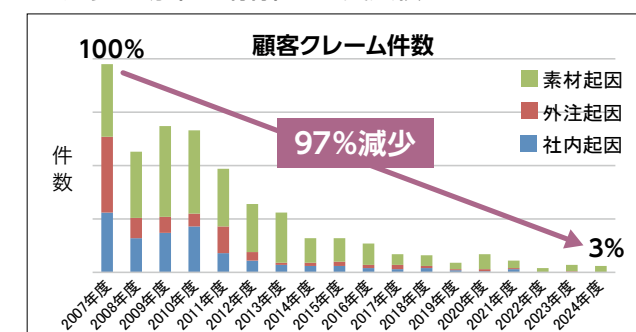
■ 本社工場の品質実績



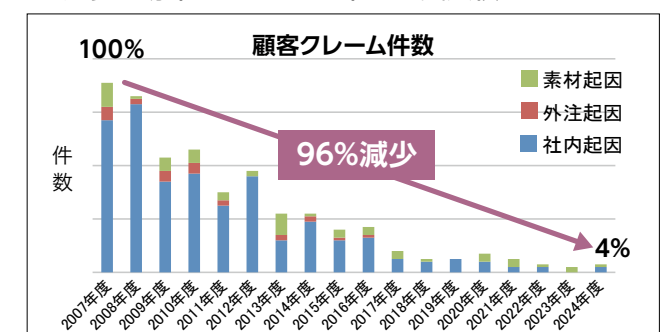
■ 十四山工場の品質実績



■ 知多工場 (CH鋼線) の品質実績



■ 知多工場 (ファインスラグ) の品質実績



労働災害の撲滅

『休業・不休業災害0件』を目標に全社一丸となり、労働災害の撲滅活動を行っています。

2023年度は、全社で6件と過去最多件数、全て5年未満の若年層での発生という悲しい結果となってしまいました。2024年度は、機械構造・設備の違い教育、若年層への基礎教育および作業標準の見直しにより、リスクを低減し労働災害ゼロを目指し活動して参りました。

全社の安全取り組み

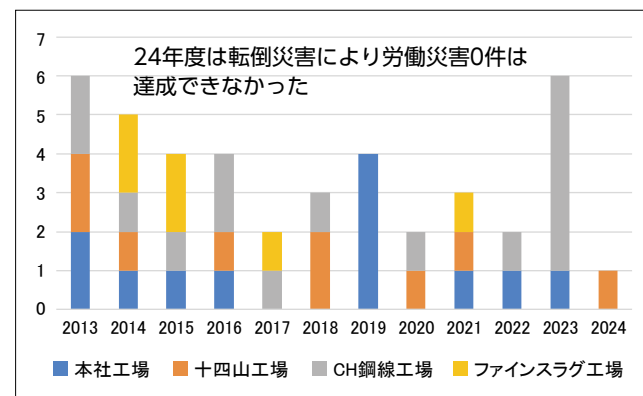
	活動内容	頻 度	活動内容
①	安全衛生会議	1回/月	各職場の安全活動の報告および意見交換
②	安全パトロール	1回/月	管理者が工場巡回し、指摘・改善を繰り返し災害を防止
③	危険予知訓練	≧1件/月	各職場に潜む危険を予想し、改善していく訓練
④	ヒヤリハット	≧1件/月	災害には至らなかった事故の未然防止活動

2025年度 各事業部の安全取り組み

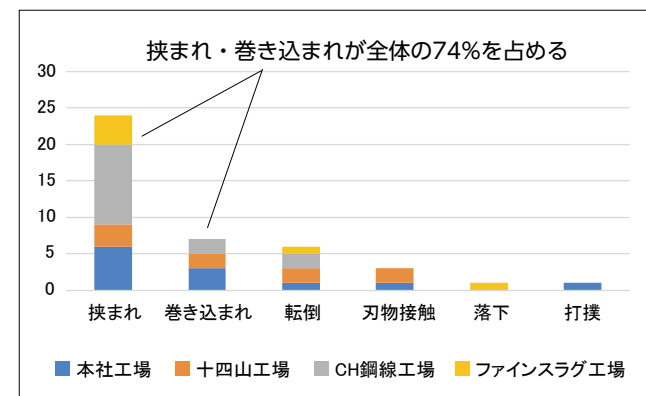
磨棒鋼管事業部	①	安全過去トラを基にした基礎教育と、理解度確認のルールを明確化する。
	②	挟まれ・巻き込まれの体感教育継続と、設備基本構造及び動作の勉強会実施
CH鋼線事業部 ファインスラグ事業部	①	危険事象、過去の災害事例を基にした基礎教育の充実。理解度確認のルール整備
	②	体感教育、設備勉強会の更なる充実による安全リテラシーの向上

災害発生状況

■ グラフ1：工場別の災害発生件数



■ グラフ2：要因別発生件数（2013年度～2024年度）



今後の課題

労働災害は、大幅に減少しましたが、無災害には至っておりません。

これらを撲滅するために「リスクアセスメント低減活動の推進」、「進入社員、若手社員を中心とした安全教育プログラムの整備」を進め労働災害ゼロの達成に向け活動して参ります。

健康経営

宮崎精鋼では、健康経営方針のもと従業員が安心して働き、最大限のパフォーマンスを発揮できる環境づくりを目指し健康経営に取り組んでいます。健康診断の受診率向上やストレスチェックの実施に加え、ワークライフバランスの推進・運動機会を増やす施策も展開。健康意識を高めるためのセミナー開催や、バランスの取れた食事提供など、社員のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に満たされている状態）を支援します。心身の健康を支えることで、企業の成長と社会への貢献を実現していきます。



健康経営方針

宮崎精鋼は、「社員に対する会社の責任は、働く生き甲斐と活力ある職場を作る事」という経営理念を追求すべく、社員の健康保持・増進や職場の環境改善に取り組んでいます。社員が心身ともに健康で、いきいきと仕事に取り組み、一人ひとりが力を発揮することで、会社の生産性や創造性の向上につながり、ひいては企業価値の向上や持続的な成長につながるとの健康経営の考えのもと、これからも社員の健康と向き合い、健康に結びつく様々な活動を積極的に推進して参ります。

健康宣言

「宮崎精鋼は、健康経営方針に基づき、以下に掲げる施策を通じて、社員一人ひとりの健康と安心して働ける職場や環境づくりに継続して取り組むことを宣言します。」

1. 社員が健康診断を受診すること、および、再検査勧奨の取り組み
2. 病気の治療と仕事の両立支援
3. 健康増進・生活習慣病予防対策
4. 食生活の改善・運動の機会の増進支援
5. 社員の健康管理に関連する法令の遵守

主な実績一覧

項 目	2022 年	2023 年	2024 年
健康診断受診	99.7%	99.7%	100%
再検査受診率	76%	70%	78%
婦人科健診受診率	67%	93%	92%
特定保健指導受診率	100%	100%	100%
ストレスチェック受診率	97%	99%	100%

主な活動取組み

- ①生産性低下防止：睡眠セミナー（RIZAP）開催
 - ②食生活改善の増進：無人店舗導入（マックスバリュ東海）※知多工場
 - ③女性の健康保持・増進：管理職対象の女性疾患理解研修開催
- 他、「ワークライフバランスの推進」「コミュニケーションの促進」「運動の機会の増進」などへの取組みを実施

サプライチェーンマネジメント

宮崎精鋼は、持続可能な社会の実現に向けて、サプライチェーンマネジメントを重要な経営課題の一つと位置づけ、お取引先企業様との一層の連携と共存共栄を進めるため、抱える課題（品質・納期の維持向上、生産性向上・コスト低減、適正取引の周知徹底、BCP（事業継続計画）の対策強化、カーボンニュートラル対応などの環境問題、デジタル化・情報セキュリティ対策など）に取り組んでまいります。

五精会パートナーシップ交流会開催

2025年2月17日（月）に、お取引先様（41社）、当社役員・社員を加えた計78名の参加のもと、第5回となる交流会を「ウインクあいち（名古屋市中村区名駅）」にて開催しました。

冒頭、五精会パートナーシップ交流会・宮崎会長（宮崎精鋼会長）の挨拶の後、北島管理本部長より、交流会の今後の取り組みについて説明がなされ、続いて宮崎精鋼各部門の取り組み状況について説明しました。また昨年の総会では、抱える課題に真摯に取り組まれたお取引先様の貢献に感謝の意を表す表彰制度もスタートさせ、そこで表彰された川北電気工業殿による取り組み事例発表も行いました。

次回交流会は、7月30日（水）に「名古屋マリオットアソシアホテル（名古屋市中村区名駅）」にて、総会・講演・懇親会を開催予定であり、総会では、特に優れた取り組みを行っているお取引先様を対象に感謝状もお贈りする予定です。



表彰受賞企業

2024年 第1回 大矢建設株式会社 / 川北電気工業株式会社

開催履歴

第1回	2023年2月	ウインクあいち	総勢 83名参加
第2回	2023年7月	名古屋マリオットアソシアホテル	総勢 120名参加
第3回	2024年2月	ウインクあいち	総勢 73名参加
第4回	2024年7月	名古屋マリオットアソシアホテル	総勢 129名参加
第5回	2025年2月	ウインクあいち	総勢 78名参加



パートナーシップ構築宣言

コンプライアンスへの取り組み

当社は、「公平で誠実な心を持ち信頼を築く事」を「社是」（行動指針）に掲げており、また、経営ビジョンにおいても「社会から信頼、評価される品格のある会社を目指す」としています。法令・規制を遵守するのみならず、社内規則や業務マニュアルなどの「社内規範」、社会の常識・良識などの「社会規範」を遵守して初めて社会の信頼を得ることが出来るとの考えのもと、引き続き真摯に取り組んでいく所存であります。

当社のコンプライアンス活動は、社長を委員長とする「コンプライアンス推進委員会」が推進主体であり、コンプライアンスに関する基本方針や重要事項を審議・決定し、同委員会を構成する各部門の責任者（コンプライアンス監督者）が実践する体制としています。

コンプライアンス問題の芽を早期に発見し、自ら迅速かつ適切に解決するための制度として、ヘルプライン制度（内部通報制度）を設け、報告相談窓口を社内・社外（法律事務所）に設置、寄せられた情報等については、速やかに調査を行うとともに、必要に応じ是正・再発防止措置を行うこととしています。

情報セキュリティに関する取り組み

『情報セキュリティ基本規定』、『情報機器利用ガイドライン』を定め、『情報セキュリティ委員会』を設置し『守秘義務』、『法令遵守』に沿った社内ルールを策定、セキュリティ対策の運用・点検・見直し等の監視を行い、情報セキュリティの維持向上に努めています。

また、技術的対策（セキュリティテクノロジー）として、社内シンクライアント、VPN（仮想専用線）の活用、UTM（統合型脅威管理）での監視による外部・社外からの不正接続の防止、EDR・EPP（エンドポイントでの検出・対応）によるマルウェア対策、基幹系システムおよび情報系システムのハイブリッドクラウド化による障害発生時の業務停止時間の短縮、専用アプリによる堅固な重要文書管理の運用を行っています。

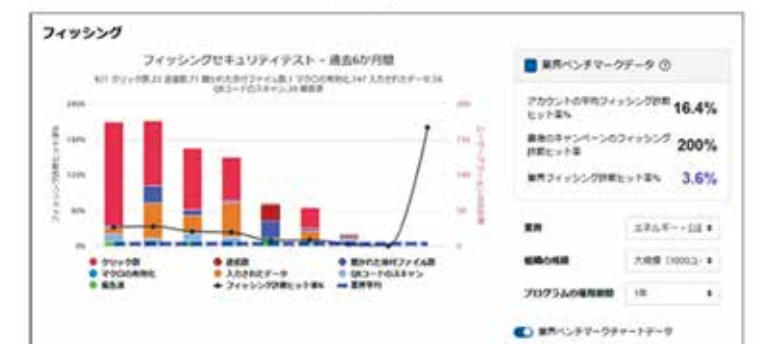
現在は、サイバーサプライチェーンリスクに対する自動車業界全体のセキュリティ対策についてレベルアップを図り、対策レベルを効果的に点検できるようにすることを主な目的として、一般社団法人 日本自動車工業会、日本自動車部品工業会が策定された『自動車産業サイバーセキュリティガイドライン』を活用し、社内規定の定期的な点検、昨今の巧妙かつ複雑化するセキュリティ攻撃への対策状況の確認チェックなどもすす、日々レベルアップに取り組んでおります。

そこで、新たな取り組みとして、セキュリティ意識向上トレーニングの「KnowB4」をプラットフォームとしたサービス「総合リスクマネジメントサービス WideAngle」を導入、セキュリティ教育トレーニング、フィッシングメール訓練を通して従業員、組織での効果測定分析をして、『Human Firewall』マインドの浸透をすすめていき、より強固なセキュリティを築いていきたいと思います。

セキュリティへの取り組み



フィッシングメール訓練結果（参考）



事業継続に向けた取り組み (Business Continuity Plan : BCP)

当社は、経営ビジョンと経営戦略の達成および事業活動の継続において、その阻害要因となる、あるいは悪影響を及ぼす可能性のある要因をリスクとして評価・認識し、合理的なコスト、活動により、リスクの軽減、最小化に取り組んでいます。

当社がリスクとして認識している主なものは右表の通りであり、社内各部門・担当部署が都度それぞれのリスク要因の現状を再評価の上、必要な見直しを行いつつ、取り組みを継続しています。

種 別	リ ス ク
外的リスク	① 大規模自然災害、② 資材・電気ガス等の価格変動など
内的リスク	① 労働災害、② 感染症、③ 製品品質、④ 環境、④ 法令・規制対応を含むコンプライアンス、⑤ 人権・個人情報、⑥ 情報セキュリティなど

1. 大規模自然災害への対応

南海トラフ地震など大地震、大型台風や集中豪雨による土砂・水害などの発生に備え、毎年9月に関連会社も含め当社の全社員が参加し、地震発生直後の初動対応から事業再開までを想定した訓練を実施しています。

1 安否確認システム

地震発生（愛知県で震度5弱以上）時に自動配信され、本人や家族の安否状況、自宅の被災状況、出社可否など被災状況を確認



管理画面イメージ

2 防災訓練の実施

災害発生時の適切な行動を身に付けるための訓練を毎年9月に実施しています。

身を守るための初動行動や安否確認、初期消火などをベースとしつつ内容は毎年見直しており、2024年は早期に事業を再開するための訓練を実施しています。

- 初動対応
 - 一次避難
 - 一次避難場所へ移動
 - 各職場、点呼と結果報告
 - 安否不明者（想定）の捜索、応急救護
 - 対策本部地区本部設置
 - 危険物・有害物管理
- 初期消火・通報訓練
 - 消防署への通報訓練
 - 消火器・消火栓を用いた初期消火
- PHV給電
 - 非常電源の確保
 - PHV車からの給電方法確認
- 対策本部・地区本部
 - 事業再開訓練
 - お客様の被災状況及び発注依頼等の確認
 - 輸送状況の確認
 - 素材在庫や納入状況確認
 - 作業人員の勤務可否確認
 - 生産設備の被害状況および稼働可否確認



一次避難



PHV給電



消火訓練



対策本部（本社）

3 災害対策備蓄品の保管および点検

災害発生時、すぐには帰宅できない状況を想定し、各工場に災害対策備蓄品を準備しています。

年2回（1月、8月）備蓄品の点検を実施、状態や使用期限などを確認するとともに、備蓄品のリストを作成、職場に掲示することで、保管品目や場所を従業員に周知しています。

- 主な備蓄・保管品
 - 食料・飲料水
 - ガス式発電機
 - 通信機器（MCA無線・トランシーバー）
 - 非常用寝具（真空パック毛布）
 - 非常用テント・簡易トイレ
 - 衛生用品（生理用品、体拭きシートなど）
 - その他 懐中電灯、電池、スコップ、ツルハシなど
- ※消耗品の備蓄基準：在籍人数の3日分



備蓄品（一部）

4 その他啓蒙活動

- 地震災害時の初動対応マニュアル
 - 地震発生時にどのような行動をとれば良いかを簡潔にまとめている他、災害時の自分の役割や家族の連絡先、地域の避難場所、上司の連絡先などの記入欄を設け、意識の向上につなげています。
- 防災意識啓蒙活動
 - 津波の恐ろしさや防災の重要性を認識する啓蒙動画（気象庁/NHK/消防庁/赤十字社提供）を視聴（11/5～8）



2. 感染症対策への対応

当社では、感染症発生時の対応を定めた「感染症対策規程」に基づき、従業員の安全確保と事業継続の両立を図っています。なお、適切な措置を講ずるため従業員には速やかに会社への報告を義務付け、指示を仰ぐことで感染拡大防止に繋がるとともに、今後も変化する社会状況に適応しながら、従業員やその家族の健康を守る取り組みを進めています。



地域貢献（社会との交わり）

宮崎精鋼は、地域社会との共生も企業活動の重要な取り組みと位置づけ、地域貢献活動を継続的に推進しています。地域清掃活動や防災協力、地元祭りへの協賛など幅広い地域イベントにも貢献しています。また、次世代育成の一環として、地元小中学校や高校・大学からの職場体験の受け入れも行っており、地域の子どもたちとの交流を通じて、将来を担う人材の育成にも貢献してゆきます。

地域共生活動

インターンシップ

就業体験を通じ、仕事や企業、業界、社会への理解を深めるとともに、早期からキャリア意識を醸成する場として、大学生・高校生を対象にインターンシップ（各種教育や作業体験など）を実施しています。



就業体験（大学生）

工場見学

宮崎精鋼は、近隣の小学校（総合学習）や中学校（職場訪問学習）ならびに高校の児童・生徒さんの工場見学を積極的に受け入れています。



工場見学

地域美化活動

地域清掃

宮崎精鋼の環境方針にも掲げる「5S活動」を通じ、工場内とその周辺の美化、作業環境の改善を推進する「地域住民とのコミュニケーションを大切に」に則り、工場周辺道路の清掃活動（月1回）を実施しています。



一斉清掃

地域支援活動

寄付・協賛

宮崎精鋼では、様々な寄付ならびに協賛も行っており、能登半島大雨災害の被災者に対する救援の支援を目的に、日本赤十字社や企業版ふるさと納税として、東海市の「ものづくり子供教育開催事業」「児童遊園等維持補修事業」と弥富市の「魅力的な弥富市をつくる事業」に寄付しています。

●主な寄付および協賛先

名古屋フィルハーモニー交響楽団／中川金魚まつり／名古屋みなと祭り／東海市花火大会／横須賀祭り／愛宕神社相撲土俵／篠原学区盆踊り大会／チャンネルアートなど

ブランディング

宮崎精鋼では、多様なメディアを活用し魅力発信に取り組み、社長がよしもと芸人と共演した動画では、笑いの中に当社の理念や魅力をちりばめ、多くの人に“知ってもらう”きっかけづくり、SNSでは、日々の取り組みや想いも発信中です。また、地元大学内のサイネージを活用したPRを展開することで、幅広い層への接点拡大を図っています。これらの活動を通じて、伝える手段を工夫しながら、宮崎精鋼の魅力を効果的に伝えて行きます。



よしもと芸人「ガンバレルーヤさん」とのコラボ企画



情報発信



大学内設置サイネージ



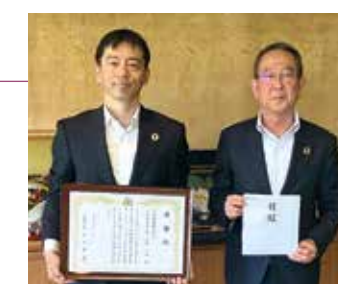
Instagram



コラボ動画



能登半島地震義援金



東海市「ものづくり子供教室開催事業」「児童遊園等維持補修事業」



弥富市の「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる事業」

